

# 酪農における和牛飼育 ～繁殖牛の飼養管理～

トータルサポート室 出雲 将之

## 1 分娩前後の管理

### (1) お産時の注意事項

清潔で環境の良い落ち着いた分娩房で、自然分娩(看視すれども関与せず)させましょう。分娩房は牛を入れる前に必ず清掃と消毒を行い、敷き料をたくさん入れて清潔で子牛にとって快適な環境を作ることが大事です。和牛の場合、産まれてくる子牛が収入の全てです。お産で子牛をダメにしたら収入はゼロとなります。お産には立ち会って不測の事態に備えましょう。

- ①胎児の肢蹄の方向に注意し、難産が予想されたら獣医師と相談しながら対応しましょう
- ②産まれた子牛が呼吸をしないときは、鼻孔を刺激したり、人工呼吸などで自発的呼吸を促します
- ③親牛が子牛を舐める行為(リッキング)は、子牛を乾かし、刺激を与えるために大事な行動です。親牛のリッキングは積極的にさせましょう
- ④子牛が初乳を飲んでいないか確認し、飲まない時や、飲ませない場合は、人工初乳を給与するなどして血液中のIgG濃度を高めます

### (2) 昼間分娩

分娩予定の10日前頃から下記のことを実践すると、約70%の牛が昼間分娩するようになります。昼間の分娩により、立ち合いが容易になり事故が減らせます。

#### 昼間分娩(分娩予定の10日前から実施)

- 1 夕方に飼料給与する
- 2 朝に餌を撤去し飼槽を空にする
- 3 日中は餌を与えない
- 4 水は不断給餌とする

### (3) 分娩房で産ませましょう

清潔で環境の良い落ち着いた場所で分娩させます。分娩に立ち会って、事故が無いように観察しながら産ませるためには、十分なスペースのある分娩房を確保しましょう。

### (4) 初乳摂取

子牛は出生時には免疫抗体を持たずに産まれます。

初乳を早く、たくさん飲むことで病気やストレスに対して抵抗力の強い子牛になります。分娩後出来るだけ早いうち(目安:6時間以内)に十分な量を飲ませることが望ましいです。

但し、難産などで子牛の哺乳意欲が小さく、羊水が胃袋に残っていることが考えられる場合は、無理に飲ませても吸収できないので注意しましょう。

## 2 分娩後から授精までの管理

### (1) 繁殖成績と収益

素牛を900千円/頭で販売しても、分娩間隔が13.5カ月令では、年間売上金額は900千円×12/13.5=800千円になってしまいます(表1)。市場で高く売れても、分娩間隔が1カ月延びる毎に1年間に得られる収入は、8%低下すると考えてください。繁殖を良くすることが年間収入を高めることにつながります。

表1 分娩間隔と年間売上

分娩間隔	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0
子牛販売価格 (千円)	700	764	730	700	672	646	622
	750	818	783	750	720	692	667
	800	873	835	800	768	738	711
	850	927	887	850	816	785	756
	900	982	939	900	864	831	800

### (2) 繁殖成績を向上するために

#### ①運動の実施と発情の発見

分娩後はパドックや放牧地で運動をさせてください。運動することによって子宮の回復が早くなり繁殖成績を向上させます。また、屋外ではスタンディングによる発情兆候の発見がしやすくなり、受胎率向上につながります。発情の観察は少なくとも1日に2回行い、発情兆候を見逃さないようにしてください。

分娩後80日以内の受胎を目標としてください。そのためには、分娩後最初の発情を見逃さずにチェックし、次回発情から授精できるように記録することが大事です。

#### ②分娩前の適切な栄養管理

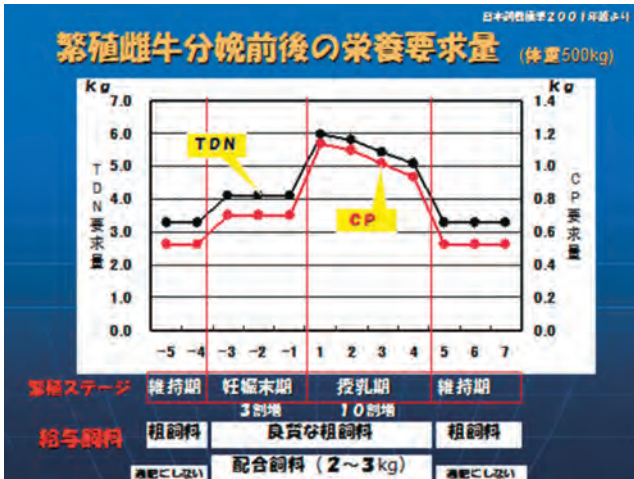


図1 繁殖牛の栄養要求量



写真1 バラ飼いで区別して増し飼い可能

### ア 胎児の発育を促す栄養管理

分娩3カ月前からお腹にいる胎児は急激に成長します。そのため胎児の成長に見合うだけの栄養を、お母さん牛に給与することが必要となります。図1のとおり、妊娠末期では通常の3割増しの栄養が必要になります。粗飼料の栄養価にもよりますが、通常1日当たり配合飼料2kgが、増し飼い分として必要となります(写真1)。胎児の発育に見合うだけの栄養を補給することで、初生体重が十分確保され母牛も元気に子牛を生むことができます。

また、母牛の年齢や妊娠末期の栄養状態が、胎児の免疫システムの成長に影響があるとされています。妊娠末期に栄養が不足すると、子牛の胸腺が十分発達せず胸腺スコアの低い子牛が生まれやすくなります。胸腺が小さいために、出生後の子牛は下痢や肺炎を発症する確率が高まります。胸腺スコアを高めるためのポイントは次のとおりです。

○分娩前2カ月の母牛への栄養充足が低いと、胸腺スコアの低い子牛が生まれやすい。特に、粗タンパク(以下CPと呼ぶ)の充足率に気をつける。そのために、分娩2カ月前から増し飼いをを行います。

○乾草のCPは低いものが多いので、CPを補充するような飼料給与を妊娠末期に行うことが重要です。

### イ 子牛の胸腺を大きくする

胸腺は胸の中と頸部の2カ所があり、頸部にある胸腺は触診でその大きさが確認できます。頸部胸腺の大きな子牛は、写真2のように外観からも認識できます。この考えは酪農家のET産子でも同じで、乾乳中の乳牛管理を正しく行うことで胸腺が発達した丈夫な子牛が産まれます。



写真2 胸腺の充実した子牛

### ③分娩後の適切な栄養管理

授乳期間中は泌乳に対する栄養補給と同時に、繁殖機能に対する栄養補給が必要です。泌乳量が多い牛ほど子牛の増体も良くなりますが、母牛の体重減少も大きくなり、痩せた状態のままでは繁殖成績が悪くなります。

母牛の乳で育てる自然哺乳では、泌乳に必要な養分を配合飼料などにより補う必要があります。母牛の栄養不足は異常なミルク産出につながり(図2)、これにより子牛の下痢を誘引することがあるので注意が必要です。

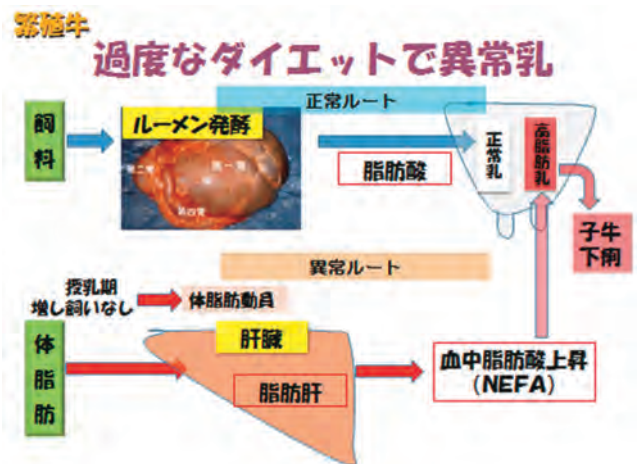


図2 低栄養による異常乳産出